

1 学校課題

本校は、山梨県の北東部、甲府盆地の北部にある山梨市に位置し、緑豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれ、桃やぶどうなどの果樹栽培を中心とした農業が盛んな地域である。

本校の児童は、明るく素直な子ども達である。児童会活動・学校行事などでは、真面目に一生懸命取り組んでいる。縦割り班の活動を中心に、上級生が下級生の面倒をよく見ており、そのことが次の学年に自然に引き継がれている。児童は、真面目で教師から指示された課題に一生懸命取り組むが、反面自ら主体的に考えて行動する姿勢が弱い。また、授業の中で自分の考えに確信が持てなかったり、教師には自分の考えが言えるが、子ども同士で考えを出し合い、深め合うといった学び合いができていないことが課題であった。

そこで、昨年度は、様々な対話的コミュニケーション活動を授業に取り入れ、子ども同士の学び合いの場面設定を工夫する事が、学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成に有効であると考え研究を進めてきた。

2 研究主題

「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」

～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

3 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

近年、知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など急速に社会が変化する中、変化に対応する能力や資質が一層求められている。また、国内外の学力調査結果などから、わが国の子ども達には、思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが明らかである。新学習指導要領では、改訂の基本的な考え方として「生きる力」という理念の共有をはじめ7つの項目が掲げられている。その一つに、思考力・判断力・表現力等の育成があり、これらの力を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習内容を重視するとともに、言語に対する理解を深め、言語活動を充実することが強調されている。

これらの今日的課題と本校の教育目標である「基本的習慣を身につけ、自らの意志で学び、心豊かにたくましく生きる子ども」の具現化を考えると、まさに言語活動を通じて積極的に学び合い、考えを深め、高め合う子どもを育成していくことが大切である。

(2) 昨年度までの研究から

本校の児童の実態から、昨年度は、学び合いの場面設定を工夫し、子ども同士の様々な対話的コミュニケーション活動を授業に取り入れる事が有効であると考え、研究を進めてきた。それぞれの発達段階に応じて2人組・班・同じ考えの者同士・違う考えの者同士等様々な場面設定を工夫して、子ども同士のかかわりの場を増やすことを目指してきた。また、確かな学力の育成、落ち着いた学習習慣の確立に向け、学習規律の徹底や家庭学習への取り組み等における指導の工夫を再認識し、全校体制で実践してきた。

その結果、一人ひとりが自信を持って自分の考えを発表する姿や、互いの考えを交流させながら共通点・相違点に目を向けたり、新たな考えを練り上げたりする姿が徐々に見られるようになり、子ども同士の学び合いの場に変容があらわれてきた。

また、主体的に学ぶためには、まず自分の考えを持つこと、発信された考えをまわりの者がしっかり受け止める（聴く）という双方向性のある学びが成立することの必要性が、そして互いの考えを伝え合うには、「聴き合う」活動が不可欠であることが研究を通して明らかになってきた。さらに、学び合う授業の前提として、「みんな聴き合う」「みんな認め合う」学級集団づくりが大切であることも明らかになった。子どもたちが、自分の考えを安心して表出するためには、それを支える「聴き合う学級集団づくり」が存在しなくてはならない。また、学習意欲を高め学び続

けるためには、「認め合う学級集団づくり」でなくてはならない。授業を通して学級づくりをすることは当然だが、学級活動、さらに学校生活全体を通して意図的・計画的・継続的に学び合う集団づくりを推進していく必要がある。聴く力を高めることは、コミュニケーション活動を円滑に進める上でも考えを深め合う上でも重要な要素である。

すべての子どもが学びの主体となり、自分の考えに確信したり考えを変容させたりするなど考えを深め合う活動を通して、自分の考えや行動に自信を持って自己決定する力を高めていきたい。また、共に学ぶ喜びや成就感を味わわせ、自尊感情も育んでいきたいと考える。

以上（１）（２）から、本年度は、昨年度までの取り組みにおける成果と課題を踏まえ、各学年の発達段階に応じた目ざす子ども像（目標）を明らかにし、学校生活全体において言語活動＝対話的コミュニケーション活動を積極的に取り入れ、共に学び合い高め合う子どもを育成していきたいと考え、本主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

（１）研究の内容

ア 対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

- ・意識調査，Q-Uテスト等から児童の実態把握を行い，目ざす子ども像（目標）を明確にする。
- ・理論研究，講師を招聘しての学習会を実施する。
- ・教科，道徳，特別活動を中核とした全教育活動での場や方法，内容を工夫する。
- ・実践例のストック（実践カード）
- ・実践を公開し合う中で，授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習習慣の確立…学習規律の徹底→学級，学校全体（聴く力を高める）
…家庭学習（家庭との連携 等）

（２）研究の方法

- ア 全体会，ブロック（低学年・高学年）の２部会により研究を行う。
- イ 児童の実態調査を年２回行い，成果や課題を分析したり，意識の変容を見取ったりする。
- ウ 学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。
- エ ブロックで全体研授業を設定する。（指導主事招聘）
- オ 一人一実践の授業公開を行う。（実践紹介）

5 年間研修計画

研究主任 丸山英子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	時期	T・C要請
研究の基本的な考え方		研究主任		4月	
研究主題等全体計画		研究主任		4月	
理論研究・児童意識調査(一次)	各教科 道徳 特別活動 等	研究主任		5月	
学習会		研究主任		6月	○
部会別研究		ブロック長		6月・7月	
部会別研究・教育課程環流報告会		各担当		8月	
部会別研究	各教科 道徳 特別活動 等	ブロック長		9月	
授業案全体検討		ブロック長		10月	
研究授業Ⅰ		授業者		10月18日	○
中間確認		担当者		10月	
部会別研究		ブロック長		11月	
授業案全体検討		ブロック長		11月	
研究授業Ⅱ		授業者		12月11日	○
部会別研究・児童意識調査(二次)		ブロック長		1月	
研究のまとめ・次年度の方向性		研究主任		2月	
研究集録作成		研究主任		3月	

